

エンジン関連の日常点検について

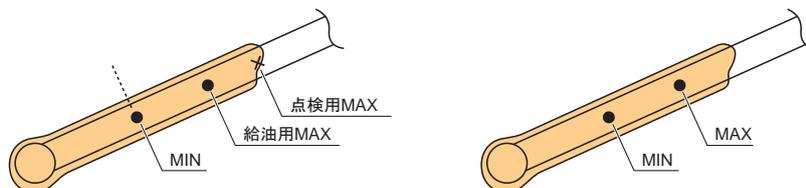
- ・ エンジン関連の日常点検には、継続して点検をしなかった場合に車両火災につながるものがあります。
- ・ 十分な日常点検を実施していただくようお願いします。

エンジンオイル量の点検

1



- ① 点検は平坦な場所で、エンジン始動前に行ってください。
- ② オイルレベルゲージを抜き取り、付着しているオイルを拭き取ります。
- ③ 再び一杯まで差し込んで静かに抜き取り、オイル位置を確認します。



- ④ オイルが点検用MAX(×表示のないものはMAX)とMINの間であれば適量です。
- ⑤ MINより下の場合、オイルを給油用MAX(×表示のないものはMAX)まで補給してください。

- * 給油の際にオイルがエンジンに付着した場合、丁寧に拭き取ってください。オイルが発火し火災になる恐れがあります。
- * エンジン性能に影響を与えますので、補給するオイルは、推奨オイルをお勧めします。

- ⑥ オイルが点検用MAXより上の場合は、オイルを交換してください。点検用MAX(×表示のないものはMAX)以上そのまま使用しますと、エンジン不調の原因となり、場合によってはエンジンが破損する恐れがあります。

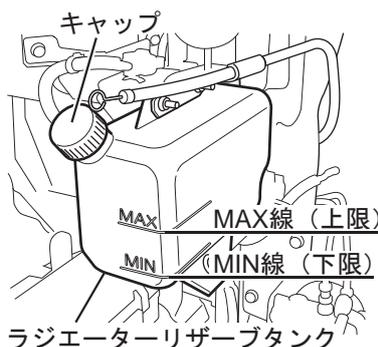
- * エンジンが破損すると、エンジンオイルが飛散して火災に至る場合も考えられます。なお、エンジンオイルは取扱説明書に記載しているインターバルで交換をお願いします。交換しない場合、エンジンオイルの劣化によりエンジンが潤滑不良を起こし焼き付きからエンジンが破損し火災に至る恐れがあります。

冷却水量の点検

2



- ① エンジンが十分に冷えていることを確認します。
- ② ラジエーターリザーブタンクの水量を確認します。水面がMAXとMINの間であれば適量です。



- ③ ラジエーターやラジエーターホースなどから、水漏れがないか点検します。また、地面にも水漏れしたシミがないか点検します。
- ④ ラジエーターホースに亀裂や損傷がないか点検します。
- ⑤ 冷却水が不足している時はMAX線まで冷却水を補給します。補給する冷却水は指定のロングライフクーラント(以下LLCと略)を適正濃度で混合したものをご使用ください。水のみを補給すると冷却水のLLC濃度が下がり、防錆性能等が低下し故障の原因となることがあります。
- ⑥ 水漏れがあった時は点検と修理を実施してください。

* 冷却水が不足した状態で走行を継続すると、エンジンがオーバーヒートする場合があります。また、ラジエーターコアやインタークーラーコアが泥やほこりで汚れているとオーバーヒートの原因となります。ラジエーターコアやインタークーラーコアが汚れている時は、洗浄願います。このオーバーヒートにより、ヘッドカバー等からエンジンオイルが漏れ、排気マニホールド等の高温部に接触して出火に至る恐れがあります。

お願い

オーバーヒート警告灯点灯、警報音作動や、水温計がレッドゾーンを指している時には、直ちに安全な場所に停車して、取扱説明書に記載されている通り点検・処置をお願いします。

